2014年度　後期　　リフレクションペーパー

学科名	生物環境化学科、電気通信工学科、経営ビジネス学科、建築・デザイン学科、情報学科				
科目名	環境と化学				
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2年次後期
必修・選択の別	生物環境化学科：選択科目、電気通信工学科：（電気エネルギーコース）選択科目、（情報システムコース）選択科目、（組込みシステムコース）選択必修科目、経営ビジネス学科：選択科目、建築・デザイン学科：（建築コース）選択科目、（デザインコース）選択科目、（建築工学コース）選択必修科目、情報学科：（ソフトウェアコース）選択科目、（ネットワークコース）選択必修科目				
担当者	松本幸三				
授業の到達目標（シラバスから）	・物質の構造、性質、変化について語る化学の言葉である「化学式」や「化学反応式」が描ける。 ・環境汚染の現状を理解し、環境改善するための方法が思考できる。 ・生活に必要なモノの購入、使用、廃棄、エネルギー使用に際し、環境に配慮して行動できるようになる。 ・市民として環境汚染に対して疑問を提起することができ、環境改善への取組に参加できる。				
日程と内容	9/16：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、化学の基礎［原子、元素、分子、イオン、モル］など 9/30：原子の構造 10/7：元素の周期律 10/14：原子の結合 10/21：物質の状態 10/28：イオン結晶、共有結晶、分子結晶、非晶質固体 11/4：液体と気体 11/11：熱力学の第一法則とエンタルピー、エントロピー 11/18：エントロピーと熱力学第二法則 11/25：化学変化の速度と平衡 12/2：エネルギー資源 12/9：電気エネルギー 12/16：再生可能エネルギーと電池 1/13：地球と環境 1/15：大気、水、土壌の環境と持続可能社会 1/27：定期試験				
成績評価基準	定期試験	80%	実技		
	臨時試験		部外評価		
	報告書・レポート		プレゼンテーション		
	課題	20%			
	演習		計		100%
授業到達目標の達成度	・物質の構造、性質、変化について語る化学の言葉である「化学式」や「化学反応式」が描ける（80%達成）。 ・環境汚染の現状を理解し、環境改善するための方法が思考できる（70%達成）。 ・生活に必要なモノの購入、使用、廃棄、エネルギー使用に際し、環境に配慮して行動できるようになる（70%達成）。 ・市民として環境汚染に対して疑問を提起することができ、環境改善への取組に参加できる（60%達成）。				
反省点	環境ならいに環境問題を理解するための化学的知識をよく身に着けることができたが、考察および実際の行動にぬ結びつける点ではやや不十分なところがあった。				
来年度の計画	環境と化学に関して学んだあとで、その知識を生かした現在の社会問題をゆっくり考察する時間を確保することを計画している。				
授業評価アンケートに対するコメント	１０点総合評価で平均８．３点は予想していたよりも低い評価点であった。講義内容は概ね理解してもらえたようだが、今現在社会で起こっている環境問題に興味をじっくりと考察し、その解決に向けた方策を話し合うことができればなお一層充実した講義になったように感じている。				
履修登録者数	97 名	定期試験受験者数	72 名	合格者数	61 名	合格率	85%